

透析看護における患者教育の定義と必要な要素の検討

恩幣(佐名木)宏美,¹ 岡 美智代,¹ 上 星 浩 子²
郷 橋 さつき³

要 旨

【目 的】 先行文献から透析看護における患者教育の定義と必要な要素を明らかにする。【方 法】 キーワードは国内外共に「透析 (dialysis)」「患者教育 (patient-education)」とし、検索ソースは国内は医学中央雑誌 Web 版、国外は PubMed を使った。文献のナラティブレビューを行い、要素について書かれている部分を抽出してカテゴリ化し、抽出された要素を検討し患者教育の定義づけを行った。【結 果】 検討した文献は国内 55 文献、国外 9 文献であった。結果、要素は 166 個のコード、16 個のサブカテゴリ、7 個のカテゴリが抽出された。抽出された要素を検討し、その上で透析看護における定義を明らかにした。【結 論】 要素の検討から、透析看護における患者教育の定義が明らかとなり、透析看護の患者教育に必要な要素として、「透析や腎疾患に特化した知識・技術提供」「疾病・透析受容を踏まえた関り」があった。(Kitakanto Med J 2009 ; 59 : 145~150)

キーワード：透析看護, 患者教育, 看護文献

1. 緒 言

わが国の透析患者数は 2007 年末で 27 万人と年々増加傾向にあり、特に糖尿病性腎症から透析となる患者の増加は著しい。¹ 透析患者は、腎不全という疾患と体外循環を伴う透析治療の双方の視点からの複雑な治療及び療養行動が必要となる。また透析療法の選択を迫られた患者および家族は、がん告知にも似た衝撃を受けるとも言われており、² 国内における透析患者のうつ病発症率も高いことから、³ 透析患者の精神的な動揺も強いと言える。看護者はこのような精神状態を把握した上で、患者が適切な自己管理行動が取れる支援が必要である。その支援の一つに、医療者が行う患者教育がある。透析看護における患者教育は多くの研究が行われており、効果も実証されている。特に透析看護における患者教育として多く使用されているプログラムとして、EASE プログラムがあり、効果が明らかとなっている。⁴

患者教育とは、日本看護科学学会の看護行為用語では自分で疾病管理や生活調整をするための知識・技術・態度の習得を助けるものと言われている。⁵ 患者教育は様々

な疾患、例えば糖尿病や心臓疾患患者への教育で行われており、看護者以外の職種においても使用されている幅広い言葉である。その中でも透析看護における患者教育は一般的に行われている食事・水分管理に加え、シャント管理から腹膜透析のカテーテル管理や在宅血液透析の指導、腎移植に向けての支援など多岐に渡っている。また、患者教育の多くが週 3 回、約 4~5 時間の危険を伴う体外循環下の透析治療時の看護業務と並行して行われるなど、十分な時間をかけて多くの患者に実施することが難しいなどの特殊性もある。しかしそのような状況下で、筆者はシャント穿針時や返血時の何気ない会話などが、患者への効果的な患者教育に繋がることを経験した。例えば、シャント穿針時に上肢が腫脹していることを発見した際、水分の取り過ぎではないかと推測し、水分摂取に対する情報収集を行い指導したなど、書籍などで十分言語化されていない看護行為が効果的な患者教育に繋がることもある。このように患者教育における看護行為には、透析看護でまだ言語化されていない部分があり、これらの発見は透析看護の発展にも繋がるのではないかと考えた。

1 群馬県前橋市昭和町3-39-15 群馬大学医学部保健学科 2 群馬県みどり市笠懸町阿左美606-7 桐生大学医療保健学部

3 群馬県前橋市昭和町3-39-22 群馬大学大学院医学系研究科保健学専攻

平成21年2月19日 受付

論文別刷請求先 〒371-8514 群馬県前橋市昭和町3-39-15 群馬大学医学部保健学科 恩幣宏美

そこで、患者教育における言語化されていない看護行為を明らかにしたく、透析看護における患者教育の定義や要素を確認したいと考えた。定義とは概念の内容を限定することであり、要素とは事物の成立・効力に必要な不可欠な根本的条件のことを指す。⁶ そのことから、透析患者の患者教育における定義と要素を明らかにすることは、透析看護者が行う効果的な患者教育の条件を明らかにできるのではないかと考えた。また、この定義や要素を明らかにすることで、臨床において何気なく行われている看護行為、すなわち透析看護の患者教育における暗黙知を発見でき、高度な患者教育の構築や潜在化している技術等の発見にも繋がるのではないかと考える。そこで、定義及び要素を把握するため先行研究や書籍等を検索したが、記述されたものはなかった。

そのことから本研究の目的は、先行文献から透析看護における患者教育の定義と要素を明らかにすることである。

II. 研究方法

1. データおよびデータ収集方法

データとなる既存文献は、国内は医学中央雑誌 Web 版 (以下、医中誌)、国外は PubMed を用いて文献検索を行った。本研究におけるレビューの対象についての選定基準は以下の通りとした。①テーマに「教育」「指導」が入っている論文であること、②看護者以外の職種が執筆した論文と腎不全保存期と臓器移植の論文は削除すること。

検索キーワードとしては、透析看護の患者教育を明らかにしたいことから、国内外ともに「透析 (dialysis)」「患者教育 (patient-education)」とした。また、国内においては原著論文では臨床上の患者教育の定義や要素が特定されにくいと判断し、論文種類を解説に限定した。PubMed の検索式は、(“dialysis” [All Fields] and “patient-education” [All Fields]) とした。検索期間は、医中誌は 1983～2007 年、PubMed は 1976～2007 年とした。

2. 分析方法

1) レビューシートを作成し、文献名と透析看護の患者

教育の定義、透析看護の患者教育の要素を項目とし、ナラティブレビューした内容を整理した。シートに文献から抽出した内容を記載する際、文献内において透析看護の患者教育の定義、透析看護の患者教育の要素が書かれている内容を、意味内容を損ねないように主語と述語からなる文章で抽出し、記録単位とした。その際、文章に複数の内容が記述されている場合は分割し、複数の記録単位とした。それら抽出した記録単位をコードとし、レビューシートに記述した。

2) 次に、コードを意味内容の類似性に従い抽象化し、サブカテゴリ化した。さらにカテゴリを意味内容の類似性に従い抽象化し、カテゴリとした。

3. 真実性の確保

データが忠実に解釈されているかなど、データ分析過程において、質的研究、また成人看護学、特に透析看護に精通した看護研究者のスーパービジョンを受けながらすすめていき、真実性の確保に努めた。

4. 倫理的配慮

本研究は文献研究のため該当しない。

III. 結果

「透析 (dialysis)」「患者教育 (patient-education)」のキーワードで検索した結果、2008 年 6 月 2 日の時点で得られた論文は、国内が 144 文献、国外が 860 文献であった。そこで、国内に関しては医中誌において看護で絞り込みを行い、さらに抄録から看護者が執筆したことが明らかな論文を抽出した結果、82 論文が該当した。国外に関しては PubMed の Limit 機能にて Subsets では Journal Groups を Nursing Groups に限定した結果、15 文献が該当した。そこから入手が可能であった国内論文 55 文献、国外文献 9 文献を対象とした。これらの結果を表 1 に示した。

1. 透析看護の患者教育における要素

透析看護の患者教育における要素として、166 個のコード、16 個のサブカテゴリ、7 個のカテゴリが抽出さ

表 1 検索結果および検討文献数

Source	Keywords	検索数
医中誌	患者教育 and 透析看護	144
	患者教育 and 透析看護 (看護で絞り込みし、看護者が執筆した文献)	82
	患者教育 and 透析看護 (看護で絞り込み) 入手可能で検討した文献	55
PubMed	Patient-education and dialysis	860
	Patient-education and dialysis (Nursing Groups で限定)	15
	Patient-education and dialysis (Nursing Groups で限定) 入手可能で検討した文献	9

れた。カテゴリは、「理論を応用した教育」「透析看護の患者教育に特化した技術」「患者教育に対する工夫」「患者の個別性を重視した教育」「リソース（看護師以外の力）を活用した教育」「看護師の能力」「合併症の予防を考えた指導」であった。カテゴリ、サブカテゴリ、コードの一部を表2に示した。

以下、サブカテゴリを〈〉、カテゴリを【】で示し、カテゴリごとに、透析看護の患者教育の要素を示す。

【理論を応用した教育】

このカテゴリは、一般的な患者教育で活用されている理論を患者教育に応用しているカテゴリとして分類された。このカテゴリには〈レディネスを踏まえた指導〉〈自己効力に働きかける看護〉〈エンパワメントに働きかける看護〉の3つのサブカテゴリが含まれ、19の記録単位を含んでいた。このカテゴリでは患者教育で有用とされる理論を使った教育が、患者には効果的であることが明らかとなっている。「患者の心理状態を把握し、自己効力に働きかける」や「学習準備状態をアセスメントし、計画的な指導」という記録単位からも、患者の様々な状態を把握した上での理論の応用が必要であることを示唆している。

【透析看護の患者教育に特化した技術】

このカテゴリは、透析看護に特化した技術を駆使した患者教育を行っているカテゴリとして分類された。このカテゴリには〈透析や腎疾患に特化した知識・技術提供〉〈疾病・透析受容を踏まえた関り〉の2つのサブカテゴリが含まれ、16の記録単位を含んでいた。このカテゴリ

では慢性腎不全という疾患により一生涯透析に依拠した生活を送る患者には疾病・透析受容を踏まえた教育が必要であることが明らかとなっている。「疾病受容ができてからの指導」という記録単位からも、透析やそれに伴う状態を把握した上での教育の必要性を示唆している。

【患者教育に対する工夫】

このカテゴリは、患者教育を行う際に患者個々に合わせた様々な工夫を駆使しているカテゴリとして分類された。このカテゴリには〈教材の工夫〉〈患者教育に対する工夫〉〈褒める関り〉の3つのサブカテゴリが含まれ、25の記録単位を含んでいた。また、このカテゴリが他のカテゴリよりも最も多い記録単位を含んでいた。慢性疾患患者は長年培った生活習慣に対する変容などが難しいため、看護師は患者が効果的に変容できるように患者教育への工夫が必要であることを示唆している。「患者のペースに合わせた根気強い指導」「数値に表れない努力を認める」という記録単位からも、患者が行動変容を諦めないための関わりに対する工夫の必要性を示唆している。

【患者の個別性を重視した教育】

このカテゴリは、患者教育を行う際患者の個別性を重視して行うカテゴリとして分類された。このカテゴリには〈患者個々を踏まえた看護〉〈発達段階に応じた支援〉〈情報収集と患者理解の必要性〉の3つのサブカテゴリが含まれ、18の記録単位を含んでいた。生活習慣は患者それぞれ様々な習慣を持っており、患者教育はその生活習慣の変容に関わるため、様々な生活習慣を理解し個別性を活かすことが必要であることが示唆されている。こ

表2 透析看護の患者教育のカテゴリ・サブカテゴリ・コード

カテゴリ	サブカテゴリ	コード
理論を応用した教育	レディネスを踏まえた指導	患者の心理状態を把握し、自己効力に働きかける
	自己効力に働きかける看護	学習準備状態をアセスメントし、計画的な指導
	エンパワメントに働きかける看護	
透析看護の患者教育に特化した技術	透析や腎疾患に特化した知識・技術提供	疾病受容ができてからの指導
	疾病・透析受容を踏まえた関り	
患者教育に対する工夫	教材の工夫	患者のペースに合わせた根気強い指導
	患者教育に対する工夫	数値に表れない努力を認める
	褒める関り	
患者の個別性を重視した教育	患者個々を踏まえた看護	患者理解のために情報収集と対象理解
	発達段階に応じた支援	患者の個々の生活や考え方を把握し、実行可能な指導内容を選択
	情報収集と患者理解の必要性	
リソース（看護師以外の力）を活用した教育	家族を含めたケア	患者・家族・医療者の双方が協力し合った治療
	多職種との連携	合併症予防を視野に入れた多職種共同の指導
	ソーシャルサポートの活用	
看護師の能力	看護師の患者教育に必要な能力	看護師自身の人間観・健康観の向上と看護過程の充実
合併症の予防を考えた指導	合併症の予防を考えた指導	合併症予防と安定透析のための水分管理指導

のことは「患者理解のために情報収集と対象理解」「患者の個々の生活や考え方を把握し、実行可能な指導内容を選択」などの記録単位からも明らかである。

【リソース（看護師以外の力）を活用した教育】

このカテゴリは、患者教育を行う際看護師以外のリソース（資源）も活かすことが効果的であるというカテゴリから分類された。このカテゴリには〈家族を含めたケア〉〈他職種との連携〉〈ソーシャルサポートの活用〉の3つのサブカテゴリが含まれ、18の記録単位を含んでいた。患者教育において在宅では家族、透析室では医師や臨床工学技士、栄養士、また広くソーシャルサポートも密接に関わるため、家族や他職種のリソースを活かした包括的な関わりが重要であることが示唆されている。このことは、「患者・家族・医療者の双方が協力し合った治療」「合併症予防を視野に入れた他職種共同の指導」などの記録単位からも明らかである。

【看護師の能力】

このカテゴリは、患者教育を行うためには看護師に必要な能力があることを明らかにしているカテゴリから分類された。このカテゴリには〈看護師の患者教育に必要な能力〉の1つのサブカテゴリが含まれ、9つの記録単位を含んでいた。患者教育は知識を伝えるだけでなく患者の背景や状況に合わせた教育が必要であり、そのためには看護師としてだけでなく人間としての価値観などを活かすことも大切であると示唆されている。このことは、「患者さんを尊重し、過去の経験や知識を学ぶ姿勢での支援」「看護師自身の人間観・健康観の向上と看護過程の充実」などの記録単位からも明らかである。

【合併症の予防を考えた指導】

このカテゴリは、透析患者で経験しやすくかつ苦痛を伴う合併症の予防に看護師が関わっていく必要があるというカテゴリから分類された。このカテゴリには〈合併症の予防を考えた指導〉の1つのサブカテゴリが含まれ、4つの記録単位を含んでいる。透析患者は毎日の水分、食事内容が生命に直結する心不全や高カリウム血症などの合併症にも繋がることもあり、長期的視点でも骨代謝異常などを引き起こすことがある。そのため、合併症を引き起こさない教育が重要であると示唆されている。このことは、「合併症予防と安定透析のための水分管理指導」「合併症の状態を踏まえたうえでの指導」などの記録単位からも明らかである。

2. 透析看護の患者教育の定義

透析看護の患者教育の定義が書かれている論文は皆無であった。

そこで、透析看護の患者教育の定義として、抽出した要素を検討し、「透析看護の患者教育とは、患者の個別性

を重視しながらも合併症予防を考慮し、看護師が理論やリソースを活用し、工夫をして行う教育実践である。その実践には、看護師の患者教育実践能力が重要である。特に、透析看護においては、透析治療に特化した知識・技術提供や透析・疾病受容に合わせた教育が必要である。」とした。

IV. 考 察

透析看護の患者教育における文献検討の結果、【理論を応用した教育】【透析看護の患者教育に特化した技術】【患者教育に対する工夫】【患者の個別性を重視した教育】【リソース（看護師以外の力）を活用した教育】【看護師の能力】【合併症の予防を考えた指導】の7つのカテゴリが内包されていることが明らかとなった。これらのカテゴリとサブカテゴリを見ると、透析看護の患者教育に特徴的な要素として、〈透析や腎疾患に特化した知識・技術提供〉と〈疾病・透析受容を踏まえた関り〉の2つのサブカテゴリからなる、【透析看護の患者教育に特化した技術】のカテゴリが見られた。本考察では、透析看護の患者教育に特徴的なこの要素と7つのカテゴリから検討された定義について述べていく。

1. 透析看護の患者教育における要素

まず、一般的な患者教育ではなく透析看護に特徴的な要素として、【透析看護に特化した技術】の中でも〈透析や腎疾患に特化した知識・技術提供〉が挙げられた理由として、透析患者の自己管理は複雑であるため、患者教育が成功するために必然的な要素としてあがってきたものと思われる。透析患者は腎不全という腎機能の廃絶に伴う自己管理と、透析治療に伴う自己管理など様々な管理が必要となる。

例えば、腎不全に伴う管理では透析治療では代償できない機能を食事や薬物療法で補うための管理があり、透析治療に伴う管理として血液透析の場合はシャント、腹膜透析ではカテーテル管理などがある。これらの管理を患者は自宅で行う必要がある。それに際し様々な知識や技術を必要とする。特に腹膜透析では清潔操作に基づくカテーテル管理や腹腔内への透析液の注入などがあり、これらの操作が清潔に行われないと腹膜炎などの重篤な状況に陥る場合もある。そのため、患者は医療者がいない自宅においてこれらの高度な管理が必要となり、そのための知識や技術を持つ必要がある。透析看護師はこのような患者を支える支援として、まずは知識や技術を伝える患者教育が必要となる。

次に、【透析看護の患者教育に特化した技術】の中のサブカテゴリである〈疾病・透析受容を踏まえた関り〉は、透析治療は一生継続くものであるため、受容状況を踏ま

えた上の教育は重要な要素として挙げたものと思われる。患者は慢性腎不全という不可逆的な腎機能の廃絶に伴う思いや、延命治療である透析治療に対する思いなど、様々な思いを持ちながら透析治療を選択するため、透析受容を支援しながらの患者教育が必要となる。

岡は食事管理行動に関連する要因の一つに透析受容があると述べており、特に非高齢者では有職者が多く社会的役割を果たすことから透析受容が食事管理行動に有意な間接効果を与えていたと述べていた。⁷ そのことから、患者の透析受容は患者教育を行う際重要視する必要があるが、近年の透析患者の平均年齢は約 64.9 歳であることから、¹ 仕事などの役割意識と透析を関連づけ、透析受容に働きかけていくことは難しい。例えば、有職者であれば、仕事を安定して継続させるためという役割意識に焦点を当て、そのために体調を整え透析間の体重コントロールを行うという透析との関連づけを行うことができる。しかし、高齢者で無職の場合、このような関連づけは難しくなる。このことから高齢者で透析導入となった患者は、何に対して生きがいや役割意識を持って日々生活しているかを把握し、そこから透析・疾病受容、そして患者教育と関連させて考えていくことが重要である。

今回検討した結果には、透析患者の患者教育に必要な要素として「患者との対話」は挙がってこなかったが、これも必要な要素であろう。安酸は患者に必要なテーラーメイドの知識と技術を提供することが専門家の責務であると述べている。⁸ さらに、テーラーメイドの知識と技術のためには、患者との対話を通して患者の置かれている状況、生活環境、病気との向き合い方を個別に知る必要があるとも述べている。⁸ 今回【透析看護の患者教育に特化した技術】の内のサブカテゴリやコードから、患者との対話が重要であるという要素が抽出されなかったのは検討を要する課題である。患者一人一人と向き合った対話を重要視しながら、個別性高い知識技術の提供が行うことが透析看護の患者教育において重要である。

2. 透析看護の患者教育の定義

透析看護の患者教育の定義として、要素の検討から「透析看護の患者教育とは、患者の個別性を重視しながらも合併症予防を考慮し、看護師が理論やリソースを活用し、工夫をして行う教育実践である。その実践には、看護師の患者教育実践能力が重要である。特に、透析看護においては、透析治療に特化した知識・技術提供や透析・疾病受容に合わせた教育が必要である。」と定義づけた。この定義を見ても、個別性の重視や工夫、透析・疾病受容に合わせるなど、患者個々の状況をアセスメントした関

わりの重要性が示唆される。2007年に透析導入となった患者の平均年齢は 66.8 歳であり、年齢層も 5 歳未満から上は 95 歳以上と幅広く、¹ 個々の患者の背景も様々である。また、透析患者の年齢分布を見ても、多くが 20 歳以上の成人の患者であり、看護師は確立された生活習慣を持った患者に対して教育を実施することになる。成人教育学、アンドラゴジー (andragogy) の要素の一つに、学習者の経験を学習資源とするがある。⁹ このことから、看護師は患者が元々持っている生活習慣や経験を批判するのではなく逆にそれを強みとし、理論やリソースを活用し、透析看護に特化した患者教育を展開することが重要となる。そこには看護師の患者教育実践能力が重要であるが、〈看護師自身の人間観・健康観の向上と看護過程の充実〉というサブカテゴリの結果からも、患者の生活習慣や経験、価値観なども理解する人間性も重要な要素となるのではないかと考える。

今回は文献から抽出したデータからの検討であり、臨床現場の状況を如実に表しているとは言えない。今後は実際の透析看護における患者教育場면을観察することで、今回明らかとした患者教育の定義と要素を検討していきたいと考える。

引用文献

1. 日本透析医学会. 図説 わが国の慢性透析療法の現況. (2008. 2. 5)
<http://docs.jsdt.or.jp/overview/index.html>.
2. 宇田有希: 透析療法における看護師の役割と意義. 日本腎不全看護学会 (編): 透析看護 第2版. 東京: 医学書院, 2005: 2-5.
3. Lopes AA, Albert MJ, Young WE, Satayathum S, Pisoni LR, Andreucci EV, Mapes LD, Mason AN, Fukuhara S, Wikstrom B, Saito A, Port KF. Screening for depression in hemodialysis patients: Associations with diagnosis, treatment, and outcomes in the DOPPS. *Kidney International*, 2004; 66: 2047-2053.
4. 恩幣(佐名木)宏美, 岡美智代, 山名栄子ら. EASE プログラムに関する文献研究. 日本腎不全看護学会誌 2008; 10(2): 80-85.
5. 日本看護科学学会 看護行為用語 (2008. 2. 5)
<http://jans.umin.ac.jp/naiyo/bunrui/data/4b0100.pdf>
6. 新村 出: 広辞苑第5版. 東京: 岩波新書, 1998.
7. 岡美智代, 宗像恒次, 戸村成男ら. 自己効力感を中心とした血液透析患者の食事管理行動の影響要因—65歳未満と65歳以上との比較—. 日本保健医療行動科学学会学会年報 1996; 11: 233-248.
8. 安酸史子: セルフマネジメントとは. 大阪: メディカ出版, 2005: 8-13.
9. Lindeman EC.: The meaning of adults education. 堀薫夫 (訳): 成人教育の意味. 東京: 学文社, 2005: 6-10.

Definition of Patient Education in Dialysis Nursing Care and Evaluation of the Necessary Elements

Hiromi Sanaki-Onbe,¹ Michiyo Oka,¹ Hiroko Joboshi²
and Satsuki Takahashi³

1 School of Health Sciences, Faculty of Medicine, Gunma University

2 Faculty of Health Care, Kiryu University

3 Course of Health Sciences, Graduate School of Medicine, Gunma University

Objectives : To define patient education in dialysis nursing care and identify the required items for such education by reviewing the published literature. **Methods :** The keywords used for the search included “dialysis” and “patient education”. Web version of Japana Centra Revuo Medicina and PubMed were used for the searches of the Japanese and foreign literature, respectively. A narrative review was undertaken for extraction of the main elements and categorization. The patient education was defined after evaluation of the main elements. **Results :** Fifty-five studies from Japan and 9 studies from overseas were evaluated. As a result, one hundred sixty-six cords, 16 sub-categories and 7 categories of items were extracted from the literature. These items were then evaluated to define patient education in dialysis nursing care. **Conclusions :** Our evaluation demonstrated that “providing information and technique specifically related to dialysis and renal diseases” and “involvement based on acceptance of the disease and dialysis ” were identified as factors required in the patient education in dialysis nursing care. (Kitakanto Med J 2009 ; 59 : 145~150)

Key Words : dialysis nursing, patient education, nursing articles